

■NPO法人 車椅子社会を考える会 理事長 篠原 博美

本日は、私の記念日にもあたります。脳出血で緊急搬送され、三途の川を渡りかけ、規定の180日のリハビリのあと、障害者としてこの世に戻ったのが、ちょうど3年前の2月1日でした。つまり、私は障害者として生まれて3歳になったわけです。3年前に、皆さんの前で、車いすに乗ってこういうお話ができるとは、まったく想像していませんでした。



私は、3年前は建築設計の仕事をしていました。バリアフリー法やハートビル法に接して、皆さんより、たぶん車いすの回転寸法や、トイレの使い方などが頭に入っていたつもりですが、実際に車いすで街に出てみると、車いす利用者に対してインフラは整備されていない感じがしました。トイレの広さなどマニュアル等もありますが、それも決して使いやすいものではありません。バリアフリー新法以降に新しいビルもできていますが、実際使ってみると車いすのことを全く考えていない。数字だけは合わせてありますが、車いすにとって使いにくいビルが多いのにびっくりしました。

去年、私は自分に課題を与えました。なるべく1人で車いすに乗って、買い物や美術館、いろいろな所に出かけるようにする。そして、できないことは近くを歩いている方などをお願いすることにしました。それは介助者がいるとなんでもやってくれてしまうので皆さんに「ああこうすればいいんだ」と経験してもらおう為です。

また、車いす仲間をたくさん作ることにしました。例えば車いすです仕事に行くとか、車いすです楽器の演奏をするとか、スポーツするとか、私がやっていないことをしている方と仲間になり、話をして、あらゆる所に情報発信することにしました。

受付で配られていたと思いますが、当会でイベントを考えています。3月20日に、「心のバリアフリー講座」の一環で、車いすです世界160カ国を回った木島英登さんに講演をお願いしました。詳細はまだ企画中です。私の思いとしては、車いすの方にたくさん来ていただきたいと思っています。車いすの方も心のバリアを取りはずしていただきたいからです。